甲斐市立敷島小学校 学校関係者評価書

令和５年 2月２４日（金）
（敷島小学校）学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日　令和５年２月１５日（感染症対策として紙面にて御意見を頂きました。）

参加者　【学校評議員】　小田切 道之　松土 仁郎
清水　學　平賀 文子　飯室　雄大
【PTA 代表】　髙橋　秀樹　※敬称略
【学校】　校長　教頭　教務主任

♦ 学校側から提案された内容

「教職員自己評価書について」

1　達成状況について

2　改善策について

3　まとめ

〈学校関係者評価書〉

♦ 主な御意見

1　学校教育目標・学校経営について

○学校教育目標について、教職員が教育目標をよく理解し、それに沿った活動を行ってきたことは大変よい。

2　学校運営について

○今年度もコロナ禍が続き、学校運営にも苦労の多い大変な年度であった。その中で、学校運営について、前年度より肯定的な回答が多くなったことは、全職員の努力の成果である。

○感染拡大防止に努めながら安心・安全な学校運営を続けている。

○「PDCA サイクルを生かした教育活動」については、スピード感が必要だ。簡易なサイクルで実施する工夫をこれからも続けてほしい。

○今後も職員が学校運営に主体的に参加できる体制を取ってほしい。

○支援を希望する児童にとって特別支援学級は大変ありがたい存在である。働き方改革に逆行しないよう配慮しながら、インクルーシブ教育の充実を図り、児童がそれぞれに自己肯定感を高められるような学校であってほしい。

3　学習指導について

〇全ての項目で肯定的な回答が多く、学習指導が充実していることがうかがえた。

〇一人一台端末の活用を今後も進めていただきたい。教員の指導力の差が子どもの能力の差につながらないように、教員の活用力の向上を目指してほしい。

〇ICT の活用に積極的に取り組んでもらいたい。情報社会に対応できる教育をしてほしい。

〇混沌とした答えの見えない時代では、既存の正解を理解したり覚えたりしているだけでなく思考や交渉などの手順を踏みながら、その場その場で最適な納得解を創り出せる能力が求められる。教員による授業の質に差が生じないように、教員同士が相互に授業を参観したりよい授業の共有を図ったりしながら、授業力の向上に取り組んでほしい。

4　生徒指導について

〇アンケート結果から、学校は安心して過ごせる環境をつくるための努力をしており、その指導が児童に浸透していることがわかる。

〇保護者の「困ったことがあったら相談できる先生がいる」の肯定的な回答が子どもの回答よりもやや低い。日常的に保護者との関係づくりに取り組んでほしい。

〇この評価における教員と保護者の認識のずれにたいして、今後も注視していっていただきたい。保護者が何を思い何を望んでいるのか、それがずれてしまうと保護者が不信感を抱くことになる恐れがある。

5　地域との連携について

〇保護者アンケートで、昨年より若干肯定的意見の数値が下がっているものが見られる。コロナ禍や体育館の改修工事等により児童活動の公開が少し減ったことが影響しているのかもしれない。保護者に向けての情報発信を続けてほしい。

〇今後、益々、地域と学校のつながりが大切になる。「地域を愛する子を育てる」「地域の子は地域で育てる」，地域の人材を積極的に活用していただきたい。

〇「授業参観や開放日などは子どもの様子を知る機会になっている」との問いに多くの保護者が肯定的な回答をしていた。次年度も感染症対策を行いながら、教育活動の公開を行ってほしい。

6　学校の特色について

〇コロナ禍で友達関係がおろそかになりがちだが、音楽集会・ファミリータイム・運動会等の行事を通して児童の関係づくりに努めているとのこと、是非今後も続けてほしい。

7　創甲斐教育について

〇他者と協働しながら、「創り出せる」能力の基礎の育成をお願いしたい。分かる授業からできる授業へのレベルアップを図ってほしい。

〇コロナ禍での学校生活も３年を経て、当たり前になりつつある。その中で、目に見えない影響が少しずつ見えるようになっていないか心配される。児童の心身の健康にしっかり目を向けてほしい。

◆　今後の課題

〇授業研究や校内研究を通した教員の授業力・ICT 活用力の向上。

〇特性のある児童への組織的な支援や児童が自己肯定感を高められるような教育活動の充実。

〇保護者や地域に向けて、学校の教育方針および教育活動等の積極的な発信。

〇保護者や地域の願いに寄り添った学校運営。

〇児童の心身の状況把握と、自分の健康を守ることができる実践力の養成。

記載責任者　：　甲斐市立敷島小学校　学校関係者評価委員　小田切　道之　印